

序

社会学ゼミも7年目となった。今年の新入生は3名新たに加わった、依然として、新カリになってからの社会学ゼミは人気がない。今年は、上記3人の新加入の他、4年生以上4名、3年生3名、2年生2名、計12名でのゼミ運営となった。

本年度も、例年と同様のパターンでのゼミ運営となった。前期は、『教養主義の没落 変わりゆくエリート文化』（竹内洋, 2005, 中公新書）をテキストとして、教養というものについて考えた。テキストは、学生の生前の話が中心であり、かれらにはやや難解であったようである。内容理解についてはかなり怪しいといわざるを得なかったものの、教養なるものの存在を考える機会としては有益であったのではないだろうか。また、前期には、北海道教育大学が行った国際会議におけるポスター展示に参加するため、わりばしと紙パックに関する簡単な研究も行った。その結果は、本報告書にも掲載されているので参照されたい。

後期最初のゼミの時間を利用して、昨年度からの恒例事業として今年度も施設見学を行い、旭山動物園に程近い『上兵村記念館』を訪れた。館長さんから直々に旭川の歴史に関するレクチャーを受ただけでなく、館内を、説明を受けながら見学させていただいた。この場を借りてあらためて感謝申し上げたい。その日は、旭川の市電の特別展示が行われており、今はなき市電が旭川市内のかかなりの距離を走っていたことを知った。また、今年度のゼミ旅行は、11月8日から9日にかけて、洞爺湖を訪れた。事情があつて私は参加しなかったが、楽しい旅行だったろうと推察する。宿はなかなかのものだったらしい。

後期は、恒例の学生によるレポート作成が中心であるが、1年生にレジュメ作成を経験してもらうため、社会学の専門雑誌から論文も数本コピーして読んだ。今年は、洞爺湖町にフォーカスを当てて、個別に担当するテーマを割り当ててレポート作成を行うという、以前のやり方で進めていった。昨年度から2年生もレポート作成を行う形にあらため、今年が2年目となる。昨年同様、本年度も、後期に行事や私の出張が多く、あまりゼミを開けなかったが、学生の身のゼミも運営に慣れてきたと思われる。ゼミの自立的能力はさらに高まりつつあるといえよう。

今年度ももう終わろうとしている。今年も個人的には多忙であつた。多忙さに反比例してゼミ運営に対する力の入れ方は弱まっているといわざるを得ない。学生には申し訳ない思いである。しかし、大学の自治というものを考えた時、もちろんそれは学生だけのものではないにせよ、学生自身の自治能力の高まりが要求される場所である。あまりに学生指導（「指導」という言葉は、本当は使いたくない）が多すぎるのも、少なすぎるのも問題である。社会学ゼミがそれなりに動いているのは、ギリギリのところでバランスがとれているからなのかもしれない。

角